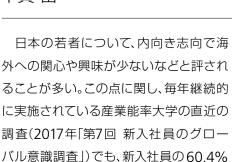
若者の「内向き志向」は本当か?

潜在する動機・意欲を引き出す早期教育の必要性

大阪成蹊大学マネジメント学部国際観光ビジネス学科教授 (前保険研究部兼経済研究部 主席研究員アジア部長)

平賀 富一



が「海外で働きたいとは思わない」との回

答をしているとの結果が示されている。

この点に関連し、複数の大学で、国際経 営に関連する科目の講義を担当している 筆者自身の経験を申し上げたい。当初は、 そのような科目を履修する受講生の多く は、海外の事象に関心や興味をもってい る受講生が多いものと思っていたが、毎 年、最初の授業で、「海外で働きたい人は?」 と質問すると、消極的な反応の人が多いこ とに驚かされる。加えて、筆者は、高校でも、 「総合的な学習の時間」の特別授業として、 上記の大学の講義のエッセンスのような 授業も行っているが、そこでも、受講生の 海外留学や海外勤務に対する反応は消極 的なものが多い。

しかし、大学で講義回数が進み、日本の 世界・アジアでのポジションや変化、アジ ア諸国の発展ぶり、グローバルな環境下 での日本の若者のチャンスといった話を 聴くにつれて、次第に受講生の考えは大 きく変化してくる。最終講義が近づく頃に は、「もっと早く高校生の時に、このような 話を聴きたかった、そうすれば、海外への 留学や、語学の勉強とか、もっと色々なこ とにより熱心に取り組めたと思うとの感 想が増える。実際に、卒業して暫くしてから、 インドネシアやベトナムなどで起業した

いので相談に乗ってほしいという複数の 卒業生と面談する機会もある。高校の場 合も、上記の特別授業が気づきや動機付 け(モチベーション)や意欲を感じる契機 になり、大学に進んで海外留学したり、グ ローバルな事業展開を行う企業に就職す るという事例の増加につながっている。こ のように考えると、日本の若者が内向きと いうのは、そもそも、海外やグローバルな 知識、視点を伝えていなかったり、そのよ うなことを真剣に考える機会が少ないこ とが、大きな理由なのではないかと推量 される。

この点に注目して、上記の産能大の調査 結果をさらに詳しく見ていくと、前述のと おり、回答者全員では6割が海外勤務を 敬遠しているが、他方、留学経験者(回答者 中の2割強)に絞ってみると、実に7割もの 多くが、海外勤務を前向きにとらえている という興味深い事実がある。

日本の若者の海外での活躍の興味深い 事例として、元AKB48のメンバーであっ た仲川遥香氏が、その著書「ガパパ!~ AKB48でパッとしなかった私が海を渡り インドネシアでもっとも有名な日本人に なるまで」(ミライカナイ、2016年)の中で 述べていることを紹介したい。仲川さんは、 2012年、AKB48から、インドネシアの姉 妹ユニットであるJKT48に志願して移籍 した。彼女は、経済発展著しいアセアン(東 南アジア諸国連合)における、最大の人口 大国(2.5億人)たるインドネシアへ居を 移し、最初の半年でインドネシア語をマス ターして活躍、大人気アーティストとなっ



ひらが・とみかる 東京海上火災保険(現東京海上日動火災保険)、 外務省等を経て、09年ニッセイ基礎研究所。 18年4月より現職 博士(経営学)·修士(法学)

た。2016年末のJKT48の卒業後も、多く のCMやテレビのトークショーのレギュ ラー出演など現地で活発な芸能活動を 行っている。その結果、「インドネシアで最 も有名な日本人」となり、2018年「日本イ ンドネシア国交樹立60周年親善大使」に 任命されたり、英国ブランドウォッチ社に よる「Twitterで最も影響力がある人ラン キング(女性部門)」で2016年・2017年 と2年連続で世界7位にランクされるな ど活躍している。

その仲川さんが、自身の苦労と成功体 験を踏まえて、日本の若者に対して、日本 国内から海外に視野を広げてより充実し た自分らしい人生を送るという観点での 重要点・留意点を挙げている。仲川さんの 例と同様に、スポーツの世界で活躍する若 者の多くが、海外でのトレーニングや試合 の経験、外国人コーチの指導を通じて技 能を高めていることは今更言及するまで もないことであろう。大きな可能性を持つ 日本の若者が、少子高齢化という課題を 抱える日本で働くことのみを考えるので はなく、アジアの成長市場など海外市場の 動向・変化、その中に自らの個性や能力を 発揮できるチャンスのある場所を見つけ るという人生の選択肢に気づき、考えて欲 しいと思う。その契機となる留学や語学学 習の意義を感じ、自分のキャリアを意欲的 に考えてもらう機会を高校や中学といっ たより早い時期に用意することが大切と 考える。